

2011年度

科目名	心理学演習ⅢB				
担当教員	小西 宏幸				
配当	人社3		コード	22067	
開期	後期	講時	火曜日2限	単位数	2
授業テーマ	心理学研究の一環として、諸外国の情報をいかに理解するかについてのトレーニング、および机上の学問にとどまらない心理学演習とはいかにあるべきかなどを学びます。				
目的と概要	講義科目ではできない、体験学習を通じて心理学における基本的な援助技法やアセスメント技法を習得します。また、最新の海外の情報を知るためにも心理学の英語論文などを検討する姿勢もつけてほしいと思います。				
成績評価法	提出物(レポートなど複数回)の評価(60%)＋授業中の質疑応答の質量(40%) 提出物の出来具合や授業中の質疑応答などから評価します。とにかく努力している姿、および積極性・主体性を評価対象にします。				
テキスト	特に、指定はしません。				
参考書	杉山尚子著「講義分析学入門」集英社新書 Dewan他著「短期精神療法の理論と実際」星和書店 丹野義彦・下山晴彦「講座・臨床心理学」東大出版会 ダンカン他「治療不能事例の心理療法」金剛出版 フィッシュ他「難治例のブリーフセラピー」金子書房等、重要文献や推薦図書などは、必要に応じて紹介します。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	この科目は、講義(レクチャー)ではなく演習です。大変かもしれませんが、能動的な学習態度を身につけてください。地域研究実習で対人援助の現場にでる予定の学生やカウンセリング実習で学外に出向く学生が受講生に多い場合、ロールプレイやディスカッションなどの演習作業を増やす予定です。 この演習をうけるにあたって、3回生配当科目ですので、心理学系や心理カウンセリング系の授業をまったく受講していない場合、かなり理解が困難だと認識してください。少なくとも、本学でいえば、心理学Bの内容、特に、学習・認知・行動分析・エクスポージャーとは何かぐらいの知識は必要になります。				
講義計画					
初回に、受講生の興味関心をお尋ねした上で、内容を選択していきたいと思います。 あくまで、内容は予定ですので、変わる予定があります。					
材料としては、 第1回～第4回 心理アセスメントの実際（1）行動観察とは？（2）検査結果をどう統合するか？（3）ABAデザインとしてのアセスメント（4）ABCモデルの2つとアセスメント 第5回～第8回 心理教育の具体的手続き（1）心理教育の背景モデル（2）心理教育の身近な例（3）心理教育の実践 第9回～第12回 事例定式化のコツ（1）5領域モデルとアセスメント（2）アセスメントと心理教育の関連性（3）介入技法の選択の問題 第13回～第15回 介入技法の基礎（1）行動的技法（2）認知的技法 などを演習形式、さらには、英書購読などの作業を通じて学習します。 基本的な援助場面をロールプレイ場面に反映させて、さらにディスカッションを行うことも多用します。 履修学生の特徴に応じて、内容を変更します。					